

令和3年度 品川区総合戦略推進委員会

主な意見・評価

議題1 品川区総合戦略の取組状況について

(1) 全体

- ・個別施策のうち、評価区分のAまたBに及ばないものについては、新型コロナウイルス流行下での行動制限の影響によるものが多く見られる。基本目標の達成度についても同様である。この点を除けば、総合戦略は全体的に順調に進行していると言える。
- ・他方で、同じく新型コロナウイルス流行下で数値自体は比較的善戦しているとはいえ（また都市部ではもともと不利な状況とはいえ）、合計特殊出生率は人口減少に対処するのに十分ではない。今後も継続して重点的な取り組みが必要と思われる。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の達成度減少（または予算の執行率低下）は止むを得ない。
- ・これまで、次期総合戦略では「よこ串」を通して縦割りによる弊害を少しでも軽減できるように、との議論があったが、各部署においても日常業務（事業）と総合戦略を有機的に繋げないと、効果的・効率的な運営がなされないと思われる。その適切な評価が実施される必要があるが、そのためには資料・データが必要になる。
- ・これまでの取り組み（平成27年度～令和2年度）について、基本目標の8割弱、施策の7割弱が「A」または「B」という結果とのことで、概ね順調に推移しているものとする。
- ・令和3年度のKPI・目標数値について、KPI、目標数値の修正は原則として行わないが、実質的に形骸化しているものはパターンにより目標数値の修正を行うことには異議はない。
- ・コロナ禍の影響により人の集まるイベントの自粛や対面講習等の中止があったため、目標数値に届かなかった施策も多くあるが、コロナ対策による縮小開催やオンライン開催等、非接触による状況に応じた対応は評価できる。

(2) 個別事業

- ・対面での実施が必要な事業については、現在の新型コロナウイルス感染症の流行下での評価は困難であり、実績値から軽々に判断すべきではないと思われる。
- ・他方で、以前から継続して実績値が目標値と乖離する傾向がある「区内企業間の新規取引件数」や「国保基本健康診査の受診率」については、そもそも KPI が適切かどうか、確認が必要であろう。たとえば後者では、受診率の上昇率を指標にするなどの工夫も考えられる。また、もし区が独力で達成することが極めて困難な課題だということがはっきりしているのであれば、別の項目を用いることも考えられるし、単純に項目を外すことも考えられる。
- ・計画事業「商店街のにぎわい創出支援」について、随時申請可能なホリデー・トレーニング事業（ミニイベント）の助成率を拡大し、イベント事業中止時の代替とする案は臨機応変な対応として評価できる。急なイベントの変更等の案内が重要になるかと思われるので、Web や SNS 等での告知も検討いただきたい。
- ・計画事業「地域における防災訓練の充実」について、防災訓練による ICT の活用を検討とあるが、スマホアプリ等を用いたより参加し易い訓練があると若い世代の参加意識も向上すると考える。
- ・計画事業「子どもを見守る地域ネットワークの拡充」について、メンテナンスによる協力者減を補う具体的施策の検討が必要と考える。

議題2 次期総合戦略について

- ・現総合戦略に比べて、対処すべきとされる課題がより具体的に設定されている点で、評価できる。特に、医療・介護支援を要する人や保護・相談を必要とする人への政策にきめ細かく目配りがされており、オリンピック開催のレガシーとも言える多様性・インクルージョンが意識されていると理解できる。
- ・デジタル化の推進については、より表題レベルで明確にされていても良いとは思いますが、各施策内で説明されているので、今後 KPI を見ながら注意して継続的に評価していけばよい。
- ・適切な KPI の設定（継続事業では今までの KPI をそのまま使用すること）は経年変化を知る上で一定の価値があると考ええる。
- ・一方、アウトプット（ある活動の開催回数など）とアウトカム（その結果として明らかになった効果）の違いを明確にして、それぞれのデータを可能な限り収集

する仕組みがあると良い。例えば、小学校で虫歯予防ワークショップをする事業を行う場合、アウトプットは10回実施というような回数になるが、アウトカムは小学生の平均虫歯数が4.3本から3.8本に減ったという表現になる。

- それぞれの部署において、当該事業のアウトカムをどのように測定したらよいか明らかにして実施することが望ましい。その意味では、各部署の職員への研修が重要だと考える。
- 各施策でのKPIのカウントには、実開催以外にもWithコロナ、Afterコロナを勘案したオンライン開催等のものも含められるように、カウント方法を決めておくと思う。
- データサイエンスを導入し、単なる増加・減少ではなく、事業活動と効果の相関の強弱や有意性も検証できるよう、事前にデータ収集を効果的にできるようにしておくことが望まれる。データ（出席者、開催回数、参加者アンケート等々）は、一元的にデータ端末から入力できるようにしておき、一元管理することで統計的分析ができるだろう。このデータが、その後さらに先の総合戦略策定のための貴重な資料となる。
- KPIには指標として「満足度」のようなものがあり、これは参加者からのフィードバックを取る意味で重要な指標として評価することだと思う。この種の満足度調査を、各部署勝手に作成すると、そのアンケート項目の質が高いものから低いものまでバラバラになってしまうことが予想される。KPIでアウトカムを取るためには質的調査はこれからますます重要になると思うので、最初の作成が重要になる（一度作成すると、その後の比較という観点から、長年それを使用することになる。）。したがって、作成にあたっては適切なサポートが必要である。例えば、質的調査の場合の雛形を作成して、一定の水準を満たしたアンケートになるように管理をしたり、最終的には専門家に検討を依頼してもよい。
- PDCAの重要性が広く謳われるようになった。今は、形式的な対応ではなく、実質的にそれが実践できているかを問われる時代となってきている。そのため、質の高いKPIの設定（特にアウトカムを意識したもの）、KPIのオンタイム・デジタル入力や一元管理、データサイエンスの導入、職員スタッフのKPIやデータに関する研修などが必要になるだろう。
- よこ串を通して、部署の協力・連携を図ることが、委員会で何度となく話された。それをどのように容易に可能にするかを事務レベルで検討する必要があると思

うが、民間では、最近沢山の質の高い事業管理ソフトが活用されてきている。例えば Trello などは使い易いし、他の部署や外部の人とも一緒にプロジェクトを回すのに好都合なソフトである。区としても事業管理ソフトの導入は検討に値すると思う。

- ・延長している総合戦略と次期総合戦略の「接合」に関して、「品川区長期基本計画」のなかの①地域（政策の柱 1-7）、②人（政策の柱 8-15）、③安全（政策の柱 16-21）を中心の枠組みとして、現行事業で継続的に入るものは、それぞれ適切な政策の柱の中に入れる形で、表現できないだろうか。「品川区長期基本計画」と次期の総合戦略の整合性がとれていることが重要だと思う。KPI 等も、それを意識した設定になるべきである。そこには 4 つの計画目標（①超長寿社会②多文化多様な生き方③強靱で魅力あるまち④先端技術活用）が示されているので、それぞれで掲げている目標達成に、個別事業が貢献する形になっていることが重要である。
- ・次期総合戦略に掲げる基本目標が、現行総合戦略を継承すること、「人口ビジョン」についても、新型コロナウイルス感染症等の社会経済状況の変化を踏まえて更新を行うことに異議はない。

—以 上—